

要 約

- (1) 藻場の季節的变化を把握するために定点で海草の生育範囲と密度を調べた。そして、夏季もっとも良く繁茂して保護水面に占める割合は14.7%になり、全体の平均は約87000㎡、12.8%である。また、湾口部が湾奥部に比べて藻場の変動の大きい傾向がみられた。
- (2) 1986年7月9日と12月5日に底生動物調査を行い線虫類、底在目、遊在目、および端脚目が多くみられた。
- (3) 1986年4月28日から1987年2月16日まで隔月1回葉上動物の調査をして遊在目と端脚目は周年みられ、また長尾類も比較的多くみられた。
- (4) アイゴ類幼魚の藻場における成長を前年度と同様に調査し、シモフリアイゴとアミアイゴでは前年度とほぼ類似した成長がみられた。
- (5) 昭和59年1月から61年12月までの名蔵湾における定置網漁獲量調査を行い年間漁獲量は20トン、主要漁獲物はコノシロ類、サヨリ類、カマス類、ヒメジ類、ハタ類、メジナ類、クロサギ類、ミナミクロダイ、フエフキダイ類、フエダイ類、アジ類、ベラ類、アイゴ類、ハリセンボン類、およびイカ、タコ類で、年間漁獲物の30%以上はアイゴ類が占める。
- (6) 1986年7月15日に入工礁調査を行い約17種類、200個体の魚類等が蛸集しておりヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイ、ロウニンアジ(幼魚)、およびミツボシクロスズメ等が比較的多くみられた。
- (7) 1986年4月30日、7月14日、10月7日、および1987年1月7日に水温、PH、比重、DO、COD、PO₄-P、NH₄-N、NO₂-N、NO₃-N量を調査した。結果は前年度とほぼ同様である。

参考文献

- | | |
|---------------|----------------------------------|
| 具志賢宗弘 | 1973：原色 沖縄の魚、pp. 251. |
| 日本魚類学会 | 1981：日本産 魚名大辞典 |
| 日本気象協会 | 1981：海洋観測指針、pp. 429. |
| 日本水産資源保護協会 | 1980：新編 水質汚濁調査指針、pp. 552. |
| 沖縄県水産試験場八重山支場 | 1983：昭和57年度保護水面管理事業調査報告書、pp. 51. |
| _____ | 1985：昭和59年度保護水面管理事業調査報告書、pp. 55. |
| _____ | 1986：昭和60年度保護水面管理事業調査報告書、pp. 46. |
| 東海大学海洋学部 | 1980：魚類図鑑、pp. 379. |

調査担当者 杉山 昭博